

右も左も Thailand

谷野由佳（M1）、平山花菜絵（4年）、中西由香理（4年）

1. はじめに

春休みに、タイのスィーパトゥム大学で日本語を教え、ホームステイをしてきました。タイ文化に全身で触れた日々でした。1つの授業にとことん向き合う時間、学生と触れ合う時間、ランゲージパートナーと過ごす時間、すべてが貴重な時間でした。

実習機関：スィーパトゥム大学（2009年度2学期T.A.プログラム）

期間：2010年2月4日～3月12日（谷野）

～3月26日（平山・中西）



2. 行なったこと —授業—

2.1 大学について

スィーパトゥム大学教養学部外国語学科日本語科にてティーチングアシスタント（以下TA）をしてきました。

「日本語学科」と書きましたが、日本語を専攻している学生はいません。日本語の授業は、「第二外国語」の授業のような存在です。

タイ語も堪能な日本人講師2名（男性1名、女性1名）の方がいらっしゃいます。タイ人の日本語の先生はいませんでした。

2.2 クラス数と日本語学習者数について

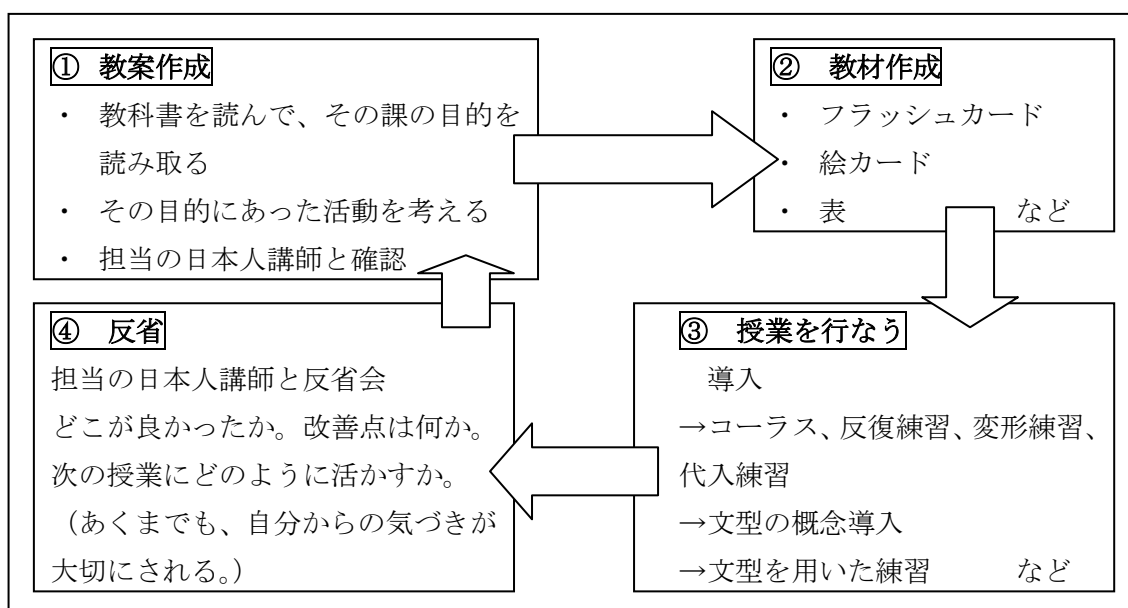
学習者数は合計 300 人程度です。クラスは次の通りです。それぞれ約週2コマぐらいのペースで授業があります。

JPN332(01)日本語Ⅱ	約50人	「みんなの日本語 初級Ⅰ」の後半をベースとした教科書を使用
JPN332(02)日本語Ⅱ	約50人	
JPN332(03)日本語Ⅱ	約50人	
JPN332(04)日本語Ⅱ	約20人	
JPN334(01)日本語Ⅳ	約10人	「日本語よろしく」5・6を中心に使用していた
JPN424(01)仕事の日本語	約50人	観光の仕事の中で使用するような実用的な日本語を学ぶ
JPN424(02)仕事の日本語	約50人	

(複数の科目を同時に履修している学生もいる。)

2.3 私たちが行なったこと

授業は1コマ90分です。そのうち、前半約45分は現地の先生による文法の説明です。後半約45分は、私たちTAが習った文型を使った会話練習など運用練習をします。約2ヶ月、1人合計10コマ以上は担当しました。





3. 授業外の活動

エメラルド寺院での日本人観光客へのインタビュー活動の援助、日本人主催のパーティ（書道や折り紙を教えた）、「はなしましろう」（日本人と話すという学生の課題）への対応がありました。その他にも、学科単位の **singing contest** の余興として盆踊りをしたりしました。

学校外では、学生が休日に海や遊園地や世界遺産アユタヤに連れて行ってってくれました。

私達の準備室は外国語学科専用の棟に入っていたのですが、外国語の先生方は本当に優しくて、ときどき昼食を奢ったり、夕食にレストランに連れて行ったりして下さいました。

学校外では、ディナークルーズやアユタヤ（世界遺産）や海や遊園地に遊びに行きました。学生が本当によく案内してくれました。



4. プログラムを終えて

<平山>

2ヶ月間、タイで、TAの経験がたくさんでき、しかもホームステイまでできるプログラムはなかなか無いと思います。非常に貴重な経験ができました。今まで卑屈に捉えがちだった私にとって、この経験は自信にもなりました。

この体験を通してこれから自分がどうしたいのか方向性が定まりました。「日本語教師」という仕事は高校の頃から目指していたものの、心の中でまだモヤモヤがあり、こんな自分が目指しているのかなど考えたりして、実は中々踏ん切りがつかなかったのです。でも、今回のこのプログラム参加し、いろいろとふっ切れました。この時期に参加してよかったですと思います。

「成功した！」と言えるような授業は一回もできませんでしたが、今後の課題をたくさん見つけることができました。今後日本語教師として過ごして、一生をかけていい授業ができるように日々精進していきたいです。それだけの魅力とやりがいがある仕事にはあると、今回改めて確信しました。

<中西>

このプログラムへの参加により、ようやく正式な形でクラス相手に日本語の授業をすることが出来ました。学習院で留学生の学習を援助する取り組みに参加しているし、クラスの前で授業をしたこともありますが、通年の授業を手伝うのは初めてでした。一人でクラス全体を目標地点まで到達させる大変さ、それを準備する際の注意点・ジレンマを本当の意味で「知る」ことが出来ました。それに対処する具体的な方法・技術を体得したことは、多いに益になりました。悩み抜いたことにより、発想が柔軟になりました。

派遣先の大学に事前に送った文章には、「教授技術を得る」「〈外国人〉としての生活を体験することにより日本国内の学習者の感情に配慮できるようになる」「学生の学習意欲を高めるきっかけになる」という参加目的を書きました。3つとも網羅できたと考えています。ホストシスターの日本語が2カ月で信じられないほど伸びたことは、3番目の目標達成の証拠の一つです。

感想としては楽しいことより大変なことのほうが多かったのですが、参加を後悔していません。むしろ、そのすべてを体験できたことを心から感謝しています。

5. みなさんへ

今回のプログラムで私たちが得たものは、大きすぎてすべてをみなさんに伝えることはできません。T.A.のプログラムの最中、ホストシスターと触れ合いの中、わたしたちはたくさん気づきがありました。それは、実際にその場に存在して、現地の人と関わって初めて見えてくるものでした。

みなさんはタイのことを知っていますか？ことばでも文化でも。実際にタイ人学生の生活に入り込み、日本語教師としての技術を実践練習できることって、そう頻繁にあるチャ

ンスではありません。

私たちの話を聞いて少しでも興味が沸いた方は、ぜひ飛び込んでみてください。思い立ったときにやるべきときなのではないでしょうか。

<谷野>

